



# 2013 年度 事業報告書 会計報告書



バングラデシュの少女  
(撮影 宮川眞一氏)

公益社団法人  
日本キリスト教海外医療協力会

Japan Overseas Christian Medical Cooperative Service  
(JOCS)

## 目 次

|                                       |    |
|---------------------------------------|----|
| 1. 今年度の歩み .....                       | 1  |
| 2. 海外諸活動 .....                        | 4  |
| 2-1 海外派遣 .....                        | 4  |
| (1) バングラデシュ 山内章子ワーカー .....            | 4  |
| (2) バングラデシュ 岩本直美ワーカー .....            | 6  |
| (3) バングラデシュ 石本馨短期ワーカー .....           | 7  |
| (4) パキスタン 青木盛ワーカー .....               | 8  |
| 2-2 研修生・奨学金支援 .....                   | 9  |
| 2-3 協働プロジェクト（プロジェクト・りとる） .....        | 16 |
| (1) BDP 学校保健プロジェクト バングラデシュ .....      | 16 |
| (2) TAHO 診療統計分析能力強化プロジェクト タンザニア ..... | 17 |
| (3) 新規 カンボジア .....                    | 17 |
| 3. 国内諸活動 .....                        | 18 |
| 3-1 国内活動全般 .....                      | 18 |
| 3-2 ワーカー育成プログラム .....                 | 19 |
| 3-3 東日本大震災被災者支援 .....                 | 22 |
| 3-4 広報 .....                          | 24 |
| 3-5 募金 .....                          | 27 |
| 3-6 使用済み切手運動 .....                    | 27 |
| 3-7 JOCS 関西バザー .....                  | 28 |
| 3-8 講師派遣プログラム .....                   | 28 |
| 3-9 事務局見学受入 .....                     | 29 |
| 3-10 ネットワーク活動 .....                   | 29 |
| 3-11 隅谷三喜男先生召天 10 周年記念講演会 .....       | 29 |
| 4. 運営会議 .....                         | 30 |
| 4-1 第 52 回定時社員総会 .....                | 30 |
| 4-2 理事会 .....                         | 30 |
| 4-3 運営協議会 .....                       | 30 |
| 4-4 委員会 .....                         | 31 |
| 4-5 5 カ年計画 2013 .....                 | 35 |
| 4-6 評価 .....                          | 36 |
| 5. 事務局 .....                          | 37 |
| 6. 一般会員・社員会員の現状報告 .....               | 38 |
| 7. 2013 年度の主な動き .....                 | 38 |
| 8. 会計報告 .....                         | 41 |
| 貸借対照表 .....                           | 41 |
| 貸借対照表内訳表 .....                        | 42 |
| 正味財産増減計算書 .....                       | 43 |
| 正味財産増減計算書内訳表 .....                    | 46 |
| 財務諸表に対する注記 .....                      | 49 |
| 附属明細書 .....                           | 51 |
| 財産目録 .....                            | 52 |
| 公益目的事業会計 収支計算書 .....                  | 54 |
| 収益事業等会計 収支計算書 .....                   | 57 |
| 法人会計 収支計算書 .....                      | 58 |
| 収支計算書総括表 .....                        | 60 |
| 収支計算書に対する注記 .....                     | 61 |
| 監査報告書 .....                           | 62 |
| 付録 2013 年度出版物に掲載された記事の一部 .....        | 64 |

## 1. 今年度の歩み

＜常務理事 畑野研太郎＞

今年度も、会員<sup>1</sup>の皆様、支援者の皆様、ボランティアの皆様のあたたかいご支援・ご協力・祈りの心に支えられ、アジア・アフリカの人々と共に生きることを目指して活動を行うことが許されましたことを、心より感謝申し上げます。

また、2011年3月11日の東日本大震災で被災された方々への支援も、皆様のご理解とご協力により、JOCSの海外での経験を活かした活動を展開できましたことに、重ねてお礼申し上げます。

今年度は、2012年12月に開催した「海外保健医療協力者会議（ネクステ会議）」で提案された様々な課題を検討し、JOCSの果たすべき役割を見直した一年でした。JOCSは現在、活動の焦点を特に、女性と子ども、障がいのある人、少数民族、HIVに影響を受けた人々、医療過疎地にある人々にあてています。今年度は、この活動を具体的に実行するための5ヵ年計画2013を策定しました。今後2017年度まで、JOCSはこの5ヵ年計画に沿って活動を行っていきます。

これからも、活動地の人々と共に生きる私たちの活動を一層充実させていくよう、努力してまいります。皆様のご支援をよろしくお願い申し上げます。

2013年度の特記すべき活動を以下に記します。

### （1）海外諸活動

#### ① ワーカー派遣：

今年度は、3名の長期派遣ワーカーがそれぞれの任地で以下の働きを行った。

バングラデシュでは、山内章子ワーカーが昨年度と同様に、バングラデシュ各地で理学療法技術者やフィールドワーカーの技術教育に取り組み、またリハビリを必要としている人へのセラピーを実施した。

岩本直美ワーカーは、ラルシュ・マイメンシン・コミュニティで、知的ハンディのある人々のためのホーム3ヵ所の運営に携わった。ハンディのある人の暮らしを支えるアシスタントの指導や、知識向上のための研修の機会の提供も行っている。

パキスタンの青木盛ワーカーは、新生児の生命をまもる診療や、乳幼児の救急医療にあたっている。将来、出産助産者の少ない地域での働きを期待されているスタッフの育成にも力を入れている。

また、バングラデシュへ短期で、作業療法士である石本馨ワーカーを派遣した。石本ワーカーは、障がいのある子どもたちの特性にあわせた訓練や介助の方法をスタッフに指導

---

<sup>1</sup>会員：本報告書の中で特にことわりのない場合は、社員会員及び一般会員の皆様に指します。

## 1. 今年度の歩み

し、また基本的なセラピーを実施した。

バングラデシュのマイメンシンで 30 年間活動した、テゼ共同体のブラザー・フランクを 2014 年 1 月に天に送った。ブラザー・フランクは、少数民族の青年たちと暮らし、山内ワーカー、岩本ワーカーと共に、障がいのある人との活動も行っていた。2010 年には来日し、JOCS 創立 50 周年感謝記念礼拝でメッセージをくださった。天に帰られたブラザー・フランクの魂が憩われますよう、心から祈りたい。

### ② 奨学金支援：

アジア・アフリカの保健医療従事者育成を目的とした奨学金は、新規受給者・継続者を合わせ、インド、インドネシア、ウガンダ、ネパール、バングラデシュ、タンザニアの 79 名の研修を支援した。

今年度は事務局よりウガンダに奨学生を訪ね、JOCS の奨学金を受けて医師や看護師になった人々が、地域医療に貢献している様子を確認することができた。

### ③ 協働プロジェクト(プロジェクト・りとる)(Project “LITTLE” = “Living together with the people”)

2010 年 4 月からバングラデシュで開始した協働プロジェクトは、4 年目を迎えている。学校での保健教育の授業、保健教育担当教員のための講習会、思春期女子生徒に向けての授業、身体測定、健康診断などを行っている。6 月に、プロジェクトの中間評価を行い、活動の振り返りと今後の計画の再検討を行った。

加えて、9 月よりタンザニアで「診療統計分析能力強化プロジェクト」を開始した。2012 年度まで倉辻忠俊ワーカーを派遣していたタボラ大司教区の保健事務所の診療データの収集と統計分析を支援している。

## (2) 国内諸活動

今年度も、JOCS に連なる皆さまのご協力を得て、東北被災地での支援活動を継続することができた。

9 月には支援者の方々と被災地を訪問する旅を、初めて開催した。この旅では仙台・石巻を訪問し、被災地の方々の声を聞き、交流の時を持った。釜石では心のケア活動及び訪問看護チームの派遣、仙台では「日本キリスト教団東北教区センター及び被災者支援センター」のスタッフの人件費サポートを継続した。福島県でも、いわき市仮設住宅集会所での健康相談活動、児童養護施設の子どもたちを放射能による健康被害からまもる活動への協力を継続した。

国内でのイベントとしては、チャリティー映画会を行った。各地区 JOCS では、今年度もワーカー報告会やチャリティーコンサートなどを開催してくださった。

また学校でのワークショップも昨年度に引き続いて開催し、途上国のことを学ぶ機会を提供することができた。他にも機会のあるごとに教会や学校などを訪問し、活動の紹介を

させていただいた。

使用済み切手運動に関しては、切手に加えて書き損じはがきや外国コインに多くの方々のご協力をいただいた。

海外保健医療協力に関心をもつ方々のため実施しているプログラムは、看護師の立場からの国際協力をテーマにした連続勉強会を開催し、毎回多くの参加者を得た。また、2013年暮れには横浜の寿地区で、海外保健医療協力セミナーを開催し、好評であった。

### (3) 運営会議

第52回定時社員総会が6月に開催され、決算報告に加え新海外担当主事の理事の選任が決議された。8回の理事会と1回の運営協議会では、様々な議題に対して真摯な協議を行った。5ヵ年計画の目標を効果的かつ効率的に達成するための組織改編にも取り組むこととした。またJOCSの「基本方針」を改定するため、理事以外のメンバーも加えて拡大協議を行った。また、1月から3月にかけて、来期に向けて理事改選のための投票が行われた。

今年度も、多くのボランティアの皆さまがJOCSの活動を支援してくださいました。私たちの活動に共感して様々な形でご支援をくださった方々に、深く感謝申し上げます。

## 2. 海外諸活動

### 〔2－1〕 海外派遣

#### （1） バングラデシュ・ワーカー 山内章子（理学療法士）

派遣先：マイメンシン テゼ共同体

今年度は総選挙に向けてのホルタル（ゼネラルストライキ）や交通網封鎖の頻発により、活動がスムーズに運ばないことが多かった。

活動の方法は以下4つに分類される。

##### 1) 理学療法

##### ①PCC (Protibondhi Community Centre) (マイメンシン県)

- ・脳性まひ児のデイケアは、課題を残すもののボランティアの関わり方や子どもの遊ばせ方が向上した。
- ・口唇口蓋裂の言語療法は、スタッフの協力が得られなかったことと、政治的ストライキの頻発により通所させることが難しかった。
- ・女性クラブ（障がい女性のワークショップ）で理学療法を行い、機能の維持、改善に取り組んだ。

##### ②Kailakuri Clinic (タンガイル県)

- ・月に一度外来のため訪問。専任の理学療法専従者の必要性及び、山内の訪問の意義についてディスカッションを繰り返した後、理解を得、11月に女性1名（息子が障がい児で、リハビリをしている）がリハビリ理学療法専従者となった。

##### ③Disabled Centre (ディナジプール県 Dhanjuri mission)

- ・フィールドワーカー（障がい者グループのサポート、訪問などを主に行う）の活動が定着した。  
訪問は出来ているが、訪問後の理学療法アドバイスに課題を残す。
- ・センター専従の理学療法技術は申し分ないレベルになった。医学的知識の提供に課題を残す。

##### ④Butahara mission (ラッシャヒ県)

- ・障がい者プログラムに関してミッション責任者の積極的な理解が得られず、新しいプログラムを展開するのに失敗した。



スタッフのトレーニングをする山内ワーカー

- ・障がい者のためのスペースを確保できるように交渉しているが、まだ得られていない。
- ・フィールドワーカーの月給がミッションから出るように交渉し、成立した。

⑤L'Arche Community（マイメンシン県）

- ・月に一度、理学療法の必要な子ども、メンバーの評価、治療を行い、スタッフに指導した。

⑥KPKS（Karibari Protibondhi Kolan Shomiti）

- ・8～10月にかけて、KPKSの障がい者の初期評価、初期治療を行った。
- ・女性障がい者の置かれている状況をテゼ共同体でシェアをした。

2) 教育

①PCC

- ・理学療法技術者へのトレーニングを行った。今年は解剖学に焦点を当て、レントゲンなどを利用し、骨学を提供した。
- ・PCCに関係するフィールドワーカーの理学療法基礎トレーニング（呼称：Basic Class）が終了し、JOCSの名で4月に修了書を発行した。卒業生は、それぞれのフィールドで役立ててくれている。（ただし、ビリシリのフィールドワーカーのフォローアップだけできていない）

②Kailakuri Clinic

- ・上記のトレーニングに理学療法担当者が出席した。

③Butahara mission

- ・訪問によって、直接ケースを通して理学療法実習を行った。また、病院との連携方法など情報収集の仕方も指導した。

＊それぞれの教育トレーニングが閉鎖することなく継続できたことはよかった。

3) 女性障がい者へのエンパワメント

①PCC

- ・PCCという男社会にあって女性クラブ（障がいを持つ女性たちの集まり）が働きやすいように、アドバイス、サポートを行った。
- ・海外から来たボランティアの協力を得て、女性クラブの商品の開発、品質改善にあたった。
- ・女性クラブの商品販売の場を拡張した。現在はダッカに定期的に販売の場を得ている。

②Butahara mission

- ・女性障がい者の集まりを作るに至らなかった。

4) 管理のサポート

①PCC

- ・PCCの管理職と女性クラブとの関係調整のため、後方サポートを行った。

②Disabled Centre

## 2. 海外諸活動

### ③Butahara mission

＊②、③各責任者の障がい児・者に対する理解を深めるよう協議を継続している。業務内容の管理は、前年度に続き山内が行っている。

#### 5) その他

①SMSM シスターズのスタッフのフォローアップは要望があったが、道路封鎖などの政治的な状況の影響により施行できなかった。

## (2) バングラデシュ・ワーカー 岩本直美（看護師）

派遣先：テゼ共同体（ラルシュ マイメンシン・コミュニティ）

### 1) 理事の養成

ラルシュを理解し、ラルシュに連なることを自分の生き方として選び取ってくれる理事を養成するために、国内外での養成プログラムを重視した。バングラデシュのラルシュは、現在一つであるため、他国のラルシュの理事たちと出会うことを意図し、ポーランドとインドで開かれた理事養成プログラムに 2 名を送った。コミュニティカウンシル（評議会）の役割について理解を求め、理事会からの代表者が、1 年に渡り継続してコミュニティカウンシルに出席することの合意を得、実施した。

### 2) アシスタント及びリーダーの養成

コミュニティカウンシルのメンバー及び、6 名のリーダーたち（三つの家と三つのプログラムの責任者）に更に責任を委ね、各リーダーたちがそれぞれのメンバーたちの思いを汲み取り、全体の状況を判断し、意思決定するよう促していった。同時に、各リーダーたちとのコミュニケーションを密に計るため、毎月個別のミーティングを持つようにした。一方、さらなる経験を積むために、4 名のアシスタントをフランス及びインドのプログラムに送った。

### 3) ダッカトラスト申請

コミュニティの長期的展望を受けダッカでトラスト登録することが決定され、理事会及び、国際ラルシュの法規に関する担当者と確認をとりながら文書を作成した。ダッカで申請を受ける利点は、主に二つあった。一つはコミュニティが多額の資金を受け取る際、ダッカの銀行に口座を置くことができれば、資金の授受が容易であり、不要なトラブルを避けることが期待できた。ダッカで口座を開くためにダッカでの登録を必要とした。もう一点は、「ラルシュバングラデシュ」の名前でダッカでトラスト申請をすることができれば、それにより、コミュニティが将来どの県においても、ラルシュを設けることが可能となる。



コミュニティのメンバーと岩本ワーカー

### 4) 土地の購入

ラルシュが借りている三つの家のうち、一つが 2015 年末でその明け渡しを迫られているため、ラルシュの将来を視野に入れ、その対策を検討した。その結果、ラルシュマイメンシンがこの地域に根付くため、また知的な障がいをもつメンバーたちの最低限の保障のためにも、土地購入を理事会は決定した。50 を越える土地を検討し、土地購入のためのファンドレイズを行った。専任の弁護士の助言のもと、登録寸前まで検討した土地が二つあったが、購入には至らなかった。現在三つ目の土地を検討しており、近く登録手続きを行う予定である。

### (3) バングラデシュ・短期ワーカー 石本馨（作業療法士、社会福祉士）

派遣先：SMSM Sisters Bangladesh

派遣期間：2013 年 4 月 5 日～6 月 30 日

派遣先が市内 3 ヲ所で実施する障がい児・者への支援活動に参加し、運動訓練・遊びや身辺介助の指導・手工芸等を、各拠点の利用者の特性に合わせて実施した。各所での活動内容と成果を以下に述べる。

#### 1) Tejkunipara

内容：社会参加や就労支援活動に移行するための取り組みとして、ハンディクラフトの時間を設けた。事前準備から職員と共に実施し、現地調達可能な材料で利用者が実施可能な種目や、作り方等を逐次検討した。また、本人の能力を引き出すように職員に環境設定方法や最小限の介助方法を指導した。



完成したハンディクラフトを持つ  
子どもたち

成果：利用者・職員共に楽しそうに取り組んでいた。利用者は活動の準備から後片付けまで積極的に取り組むようになり、職員も時間前から事前準備に取り組むなどの変化が見られた。また、介助方法を実演して指導した結果、「自分でできるための介助」を心がけるようになった。毎週木曜日に職業訓練の名目で実施することになり、手工芸が得意なスタッフが担当することになった。

#### 2) Noyanogor

内容：利用者の大半は学齢期前の子どものため、担当スタッフの希望で基本的なセラピー方法を指導したほか、グループセラピーや療育あそびを取り入れ、活動の流れにメリハリをつけて利用児を飽きさせない方法を紹介した。

成果：基本的なセラピー方法は一通り実施できるようになったが、個別対応についてはまだ困難である。グループセラピーや療育遊びは子どもたちに好評で、それを見たスタッフが仕事に取り組む意欲を見せ、子どもや母親への関わり方もより積極

## 2. 海外諸活動

的になった。母親も子どもの笑顔を見て療育あそびの大切さを実感した様子である。

### 3) Shishu Bhaban Islampur

内容：担当スタッフの希望で、基本的なセラピー方法を指導したほか、食事介助方法を指導した。寝かせたままで食べさせている利用者を座らせるようにしたり、持ちやすい形のスプーンを提供した。

成果：基本的なセラピー方法は一通り実施できるようになったが、個別対応はまだ困難である。食事介助については、楽に短時間で実施できる介助方法はスタッフも実施するようになったが、時間がかかるような介助方法は、筆者が見ているときのみ実施していた。

おわりに

今回、赴任直後にスタッフの活動体制が変更したり、ホルタルなどで当初の予定どおりに活動が進まないことが多発したが、受け入れ先のスタッフの協力により何とか対応できた。その反面、派遣前に活動目標を立てたことで、受け入れ先スタッフの要望に十分応えられたかどうか不安が残った。

## (4) パキスタン・ワーカー 青木盛（医師）

派遣先：聖ラファエル病院（St. Raphael's Hospital）

### 1) St. Raphael's Hospital（聖ラファエル病院）での業務

#### ①外来診察

- ・月曜から土曜、1日3時間程。その他時間外の診察。
- ・多い疾患は肺炎、気管支炎、下痢、皮膚病、脳性麻痺など。

#### ②小児の入院 ③新生児室

- ・1日3回の回診と病的新生児の治療を行った。



保育器の新生児を診る青木ワーカー

|        | 分娩数  | 経膣分娩 | 帝王切開     | 他院へ紹介した新生児数 | 院内死亡した新生児数 | 人工呼吸器を使用した新生児数 |
|--------|------|------|----------|-------------|------------|----------------|
| 2012 年 | 1717 | 787  | 930(54%) | 22          | 25         | 23             |
| 2013 年 | 1642 | 886  | 756(46%) | 40          | 25         | 1              |

- ・2013 年度は事情により人工呼吸器が必要な新生児は他院へ送るようにした。
- ・死亡原因は早産児（特に在胎 28 週未満）、極低出生体重児、新生児仮死、呼吸窮迫

症候群、胎便吸引症候群、敗血症、先天異常など。

## 2) プロジェクト費

- ・新生児室にビリルビン測定器を購入した。これまでは検査に必要な採血量が多く、特に低出生体重児の検査が困難であった。新しく購入した測定器は微量の採血で測定可能であるため、児への負担が少なく、連日の採血が可能であり、新生児黄疸の早期発見・治療に役立っている。

## 3) 奨学金

- ・2013年度の申請なし。

## 4) 学生の講義

- ・2013年度は、学生全体への講義は行わなかった。
- ・外来、新生児室で折々、疾患や看護のポイントについて説明した。

## 【2-2】 研修生・奨学金支援

2013年度に支援した奨学生は、インドネシア 15 名、ネパール 18 名、バングラデシュ 5 名、インド 4 名、ウガンダ 24 名、タンザニア 13 名の合計 79 名である。詳細は 2013 年度研修生一覧（10～15 ページ）を参照。

2014 年 3 月に、ウガンダで奨学生のフォローアップを行った。UPMB（ウガンダ・プロテスタント・メディカル・ビューロー）が管轄する 10 箇所の保健医療施設を訪問し、これまでに承認された奨学生 42 人の状況を確認した。このうち 19 人とは直接面談をした。

この他、職員の出張の機会を利用して、バングラデシュとタンザニアでもフォローアップを行った。

### 一覧表注

\*職業は、奨学金申請時点のもの

\*ICAHS-Indonesia Christian Association for Health Services

（インドネシアキリスト教保健サービス協会）

\*HDCS-Human Development and Community Services（ネパールのキリスト教系 NGO）

\*UMN-United Mission to Nepal（ネパール合同ミッション・ネパールで活動するキリスト教系国際 NGO）

\*LMN-The Leprosy Mission Nepal

（ネパールでハンセン病患者のために活動するキリスト教系国際 NGO）

\*UPMB-Uganda Protestant Medical Bureau（ウガンダプロテスタント医療連盟）

2. 海外諸活動

インドネシア

| 名前                            | 性別 | 年齢 | 職業     | 所属団体名                          | 研修機関                                         | 研修内容      | 研修期間                |
|-------------------------------|----|----|--------|--------------------------------|----------------------------------------------|-----------|---------------------|
| Ms. Aprilin Poakalose         | 女  | 30 | 看護師    | GKST                           | STIFA Pelita Mas, Palu                       | 薬学        | 2011年6月 ～ 2015年8月   |
| Ms. Ferderika Amiran          | 女  | 32 | 看護師    | GKST                           | STIK Indonesia, Institute of Medical Science | 看護学       | 2012年10月 ～ 2013年11月 |
| Mr. Frits Lexi Meinker Motjai | 男  | 25 | 学生     | GKST                           | SAM Ratulangi University                     | 医学        | 2007年7月 ～ 2014年6月   |
| Mr. Iver Sudipi               | 女  | 27 | 看護師    | GKST                           | PGI Cikini Hospital                          | 外科マネージメント | 2013年8月 ～ 2013年11月  |
| Ms. Kristin Natalia Puahadi   | 女  | 21 | 事務     | GKST                           | STIK, Indonesia Jaya Palu                    | 栄養学       | 2013年9月 ～ 2016年9月   |
| Mr. Mardianus Tado'u          | 男  | 27 | 薬局スタッフ | GKST                           | Samratulangi University, Manado              | 医学        | 2007年7月 ～ 2014年6月   |
| Mr. Panca D. Dese             | 男  | 46 | 看護主任   | GKST                           | STIK Central Jaya Palu                       | 看護学修士     | 2011年9月 ～ 2014年9月   |
| Ms. Veronika Uktulsea         | 女  | 25 | 看護師    | GKST                           | Stikes Husada Mandiri Poso                   | 助産学       | 2014年7月 ～ 2017年7月   |
| Ms. Yuliana Najaya            | 女  | 27 | 看護師    | GKST                           | Stikes Husada Mandiri, Poso                  | 助産学       | 2011年6月 ～ 2014年9月   |
| Ms. Ariane Englin Repi        | 女  | 40 | 看護師    | GMIM Kalooran Amurang Hospital | Bethesda Nursing Academy                     | 看護学       | 2012年8月 ～ 2015年7月   |
| Ms. Ervinna Annyta Lontaan    | 女  | 39 | 看護師    | GMIM Kalooran Amurang Hospital | Bethesda Nursing Academy                     | 看護学       | 2012年8月 ～ 2015年7月   |
| Mr. Jappy Roby Waladow        | 男  | 41 | 看護師    | GMIM Kalooran Amurang Hospital | Bethesda Nursing Academy                     | 看護学       | 2012年8月 ～ 2015年7月   |
| Ms. Menny Lolowang            | 女  | 33 | 看護師    | GMIM Kalooran Amurang Hospital | Bethesda Nursing Academy                     | 看護学       | 2012年8月 ～ 2015年7月   |
| Ms. Deraldina Baud            | 女  | 23 | 看護師    | ICHAS-Bethesda Hospital        | Tarumanagara, Jakarta                        | 医学        | 2013年1月 ～ 2018年1月   |
| Ms. Katrina Nono              | 女  | 34 | 薬局スタッフ | ICAHS Lindimara Hospital       | Politeknik Kesehatan Kupang                  | 看護学       | 2010年6月 ～ 2013年9月   |

ネパール

| 名前                            | 性別 | 年齢 | 職業            | 所属団体名                            | 研修機関                                                  | 研修内容              | 研修期間                |
|-------------------------------|----|----|---------------|----------------------------------|-------------------------------------------------------|-------------------|---------------------|
| Mr. Jaganath Maharjan         | 男  | 42 | 理学療法士<br>助手   | Anandaban Hospital               | Kathmandu University, School of Medical Science       | 理学療法              | 2010年7月 ～ 2015年1月   |
| Ms. Jayanti Kumari Niroula    | 女  | 40 | 看護師           | Anandaban Hospital               | Lalitpur Nursing Campus                               | 看護学               | 2011年11月 ～ 2013年11月 |
| Ms. Lila Kumari Khadka        | 女  | 26 | 看護師           | Anandaban Hospital               | Nagarik College of Health Science                     | 看護学修士             | 2012年12月 ～ 2015年10月 |
| Dr. Min Bahadur Thapa         | 男  | 41 | 医師            | Anandaban Hospital               | Kathmandu University                                  | 放射線診療             | 2010年9月 ～ 2013年9月   |
| Mr. Aaron Subba               | 男  | 22 | 無職            | HDCS                             | Asian College of Medical Science & Technology P. LTD  | 臨床検査              | 2012年12月 ～ 2015年12月 |
| Mr. Bhupendra Raj Giri        | 男  | 32 | 村落保健員         | HDCS Chaurjahari Hospital        | College of Allied Health Science                      | 公衆衛生              | 2013年7月 ～ 2016年7月   |
| Mr. Chandra Giri              | 男  | 43 | 薬局スタッフ        | HDCS Chaurjahari Hospital        | Kailpal Health Institution                            | 薬学                | 2011年9月 ～ 2014年9月   |
| Mr. Ghurka Bahadur Budhathoki | 男  | 34 | 外来主任          | HDCS Chaurjahari Hospital        | Nepal Commerce Campus, New Baneswor Kathmandu College | 経営学               | 2013年8月 ～ 2016年8月   |
| Dr. Kalebu Kumar Budha        | 男  | 30 | 医師            | HDCS Chaurjahari Hospital        | National Academy of Medical Sciences                  | 小児医学              | 2011年9月 ～ 2014年9月   |
| Mr. Kapil Presad Jaishi       | 男  | 41 | 事務            | HDCS Chaurjahari Hospital        | National Open College                                 | ヘルスケアマネジメント<br>修士 | 2011年11月 ～ 2014年11月 |
| Mr. Tilak Bahadur Kumar       | 男  | 34 | 地域保健・<br>公衆衛生 | HDCS Chaurjahari Hospital        | Kaipal Health Academy, Nepalgunj Bank Nepal           | 公衆衛生              | 2010年7月 ～ 2013年10月  |
| Ms. Roshani Agrawal Khattry   | 女  | 36 | 看護講師助<br>手    | Lalitpur Nursing Campus          | Faran College of Nursing                              | 看護学修士             | 2013年6月 ～ 2015年6月   |
| Ms. Vivechana Shakya          | 女  | 36 | 講師            | Lalitpur Nursing Campus          | Faran College of Nursing, Bangalore, India            | 小児看護修士            | 2012年7月 ～ 2014年7月   |
| Ms. Ester Parajuli Kharel     | 女  | 37 | 看護講師助<br>手    | Tansen Nursing School            | Sanjeevani College of Medical Sciences                | 看護学               | 2014年1月 ～ 2017年1月   |
| Ms. Asha Rawal                | 女  | 19 | 学生            | Tikapur Christiya Mandali Church | Far- West Technical College                           | 看護師               | 2010年9月 ～ 2013年9月   |

2. 海外諸活動

| 名前                     | 性別 | 年齢 | 職業   | 所属団体名                       | 研修機関                             | 研修内容   | 研修期間              |
|------------------------|----|----|------|-----------------------------|----------------------------------|--------|-------------------|
| Ms. Bimala Khati       | 女  | 44 | 准助産師 | UMN Tansen Mission Hospital | Tansen Nursing School            | 看護師    | 2010年9月 ～ 2013年9月 |
| Ms. Sita Gaire Bashyal | 女  | 29 | 看護師  | UMN Tansen Mission Hospital | B & B Medical Institute          | 看護学修士  | 2013年3月 ～ 2016年3月 |
| Mr. Tilak Raj Khanal   | 男  | 44 | 検査技師 | UMN Tansen Mission Hospital | Chitwan School of Medial Science | 医用画像工学 | 2012年9月 ～ 2016年8月 |

バングラデシュ

|                      |   |    |           |                     |                                           |        |                   |
|----------------------|---|----|-----------|---------------------|-------------------------------------------|--------|-------------------|
| Mr. Hembrom Isahak   | 男 | 21 | 無職        | St.Vincent Hospital | Bachelor in Physiotherapy                 | 理学療法   | 2012年1月 ～ 2015年1月 |
| Mr. Marma Bijoy      | 男 | 46 | 地域保健・公衆衛生 | CHC                 | Atish Dipankar University                 | 公衆衛生修士 | 2012年1月 ～ 2013年7月 |
| Ms. Barua Priyanka   | 女 | 20 | 無職        | Mahamuni Bidhaba    | Christian Hospital Chandraghona           | 看護師    | 2012年1月 ～ 2015年7月 |
| Ms. Tirkey Shishilia | 女 | 19 | 無職        | PIME Sisters        | Holy Family Red Crescent Medical Hospital | 看護師    | 2013年2月 ～ 2016年2月 |
| Ms. Tripura Maria    | 女 | 23 | 無職        | PIME Sisters        | Green Life Medical College                | 看護師    | 2011年2月 ～ 2014年2月 |

インド

|                            |   |    |    |                               |                                               |       |                   |
|----------------------------|---|----|----|-------------------------------|-----------------------------------------------|-------|-------------------|
| Mr. David Livingstone J.   | 男 | 21 | 無職 | Christian Fellowship Hospital | C.S.I. College of Dental Science and Research | 歯学    | 2009年9月 ～ 2015年2月 |
| Mr. Joshua Paul            | 男 | 21 | 学生 | Christian Fellowship Hospital | Christian Medical College, Vellore            | 臨床検査学 | 2010年7月 ～ 2014年7月 |
| Ms. Karthika N.            | 女 | 20 | 学生 | Christian Fellowship Hospital | Christian Medical College                     | 医学    | 2011年7月 ～ 2016年1月 |
| Ms. Sathiya Priya Muniandi | 女 | 21 | 無職 | Christian Fellowship Hospital | Sarah Nursing College                         | 看護学   | 2009年9月 ～ 2013年9月 |

ウガンダ

| 名前                            | 性別 | 年齢 | 職業         | 所属団体名                                | 研修機関                                                              | 研修内容      | 研修期間                |
|-------------------------------|----|----|------------|--------------------------------------|-------------------------------------------------------------------|-----------|---------------------|
| Mr. Kawooya Patrick           | 男  | 31 | 検査技師       | Reach Out                            | Mbarara University of Science and Technology                      | 臨床検査      | 2011年8月 ～ 2013年8月   |
| Mr. Labu Albert               | 男  | 28 | 准看護師       | UPMB Akisyon A Yesu                  | International Health Sciences University                          | 臨床医学・公衆衛生 | 2012年8月 ～ 2015年8月   |
| Mr. Ndikumwami Hubert Nkabura | 男  | 22 | 看護師        | UPMB Bwindi Community Hospital       | Kampala International University                                  | 臨床医学・公衆衛生 | 2013年8月 ～ 2016年8月   |
| Ms. Atuheire Catherine Allen  | 女  | 37 | 准助産師       | UPMB Bwindi Community Hospital       | Mengo School of Nursing and Midwifery                             | 助産師       | 2012年5月 ～ 2013年11月  |
| Ms. Komukama Annet Sanyu      | 女  | 36 | 看護師        | UPMB COU, Kisiizi Hospiita I         | Health Tutors' College Mulago                                     | 看護学教員     | 2010年10月 ～ 2013年10月 |
| Ms. Nabirye Loy               | 女  | 37 | 医師長        | UPMB Kabarole Hospital COU           | Makerere University College of Health Sciences School of Medicine | 小児医学・小児看護 | 2013年8月 ～ 2016年8月   |
| Mr. Obaku Jackson             | 男  | 28 | ヘルプセンター責任者 | UPMB Kei Health Centre, Here is life | Kampala International University                                  | 医学        | 2012年9月 ～ 2018年6月   |
| Mr. Syaipuma Moreshe          | 男  | 27 | 看護助手       | UPMB Kinyamaseke Health Centre III   | Kagando School of Nursing and Midwifery                           | 准看護師      | 2011年5月 ～ 2013年11月  |
| Mr. Bukenya Stephen Ojwang    | 男  | 26 | 学生         | UPMB Kitgum Diocese                  | Gulu University                                                   | 医学        | 2012年9月 ～ 2014年9月   |
| Mr. Mabira Kenneth            | 男  | 39 | 看護師        | UPMB Kiwoko Hospital                 | Mulago School of Paramedics                                       | 麻酔学       | 2012年5月 ～ 2014年11月  |
| Mr. Okurut Fred               | 男  | 30 | 准看護師       | UPMB Kiwoko Hospital                 | Mulago School of Nursing and Midwifery                            | 看護師       | 2012年5月 ～ 2013年11月  |
| Ms. Bazira Nakato Rebecca     | 女  | 37 | 准看護師       | UPMB Kiwoko Hospital                 | Mulago School of Nursing and Midwifery                            | 看護師       | 2013年5月 ～ 2015年5月   |
| Ms. Jane Nabaggala            | 女  | 39 | 看護師        | UPMB Kiwoko Hospital                 | International Health Sciences University (IHSU)                   | 看護学       | 2013年9月 ～ 2016年9月   |
| Mr. Okiring Joseph            | 男  | 25 | 暗室助手       | UPMB Kumi Hospital                   | Kampala International University                                  | 臨床医学・公衆衛生 | 2013年8月 ～ 2016年8月   |
| Ms. Nanyanzi Eunice Rebecca   | 女  | 33 | 助産師        | UPMB Mengo Hospital                  | Mulago Paramedical School                                         | 麻酔学       | 2012年8月 ～ 2014年8月   |

2. 海外諸活動

| 名前                         | 性別 | 年齢 | 職業         | 所属団体名                                                     | 研修機関                                            | 研修内容      | 研修期間               |
|----------------------------|----|----|------------|-----------------------------------------------------------|-------------------------------------------------|-----------|--------------------|
| Ms. Olivia Naggayi         | 女  | 31 | 准助産師       | UPMB Mengo Hospital                                       | Mengo School of Nursing and Midwifery           | 助産師       | 2013年11月 ~ 2015年5月 |
| Ms. Nampewo Lydia          | 女  | 34 | 准助産師       | UPMB Mengo School of Nursing                              | Mengo School of Nursing and Midwifery           | 助産師       | 2013年5月 ~ 2014年11月 |
| Ms. Nansamba Valentine     | 女  | 31 | 准助産師       | UPMB Mengo School of Nursing                              | Mengo School of Nursing and Midwifery           | 看護師       | 2012年5月 ~ 2013年11月 |
| Ms. Nantongo Resty         | 女  | 32 | 看護師        | UPMB Mengo School of Nursing                              | International Health Sciences University        | 看護学       | 2012年8月 ~ 2015年8月  |
| Mr. Gideon Bwambale        | 男  | 33 | 看護助手       | UPMB Rwesande Health Center IV                            | Kagando School of Nursing and Midwifery         | 准看護師      | 2010年5月 ~ 2013年5月  |
| Mr. Arinaitwe Edson        | 男  | 30 | 検査技師助手     | UPMB Ruharo Mission Hospital                              | Mbarara Medical Laboratory Training School      | 臨床検査      | 2011年6月 ~ 2013年6月  |
| Mr. Tumusine Christopher   | 男  | 44 | 准看護師       | UPMB Ruharo Mission Hospital Eye Centre                   | Masaka School of Comprehensive Nursing          | 看護師       | 2013年5月 ~ 2014年11月 |
| Mr. Atibuni Daniel         | 男  | 26 | ヘルプセンター責任者 | UPMB St. Luke Katiyi Health Centre III                    | Gulu Institute of Health Sciences               | 臨床医学・公衆衛生 | 2012年8月 ~ 2015年8月  |
| Mr. Mugumya Gilbert Tadeus | 男  | 31 | 検査技師       | UPMB Wentz Medical Center, International Hospital Kampala | International Health Sciences University (IHSU) | 臨床検査      | 2012年8月 ~ 2014年8月  |

タンザニア

|                                |   |    |        |                          |                                                    |         |                   |
|--------------------------------|---|----|--------|--------------------------|----------------------------------------------------|---------|-------------------|
| Ms. Bertha John Makoye         | 女 | 24 | 看護助手   | TAHO Igoko Dispensary    | Kolandoto School of Nursing                        | 看護師・助産師 | 2010年9月 ~ 2013年9月 |
| Mr. Paschal Peter Mashimi      | 男 | 25 | 検査技師助手 | TAHO Igoko Dispensary    | Kolandoto School of Nursing                        | 看護師・助産師 | 2011年8月 ~ 2014年8月 |
| Ms. Rozalia Constantino Buholo | 女 | 24 | 看護助手   | TAHO Igoko Dispensary    | Kolandoto School of Nursing                        | 看護師・助産師 | 2011年8月 ~ 2014年8月 |
| Mr. Damas Joseph Jacob         | 男 | 21 | 看護助手   | TAHO Ipuli Health Centre | Kolandoto College of Health Science                | 看護師・助産師 | 2012年9月 ~ 2014年9月 |
| Mr. Francis Fortune Tegete     | 男 | 27 | 学生     | TAHO Ipuli Health Centre | Hubert Kairuki Memorial University                 | 医学      | 2010年9月 ~ 2013年9月 |
| Mr. Magesi Vincent Maswi       | 男 | 29 | 医師補    | TAHO Ipuli Health Centre | International Medical and Technological University | 医学      | 2012年8月 ~ 2017年8月 |

| 名前                          | 性別 | 年齢 | 職業   | 所属団体名                      | 研修機関                                      | 研修内容    | 研修期間                |
|-----------------------------|----|----|------|----------------------------|-------------------------------------------|---------|---------------------|
| Mr. Marcelino Simon Mnimbo  | 男  | 20 | 看護助手 | TAHO Ipuli Health Centre   | Kolandoto College of Health Science       | 臨床検査    | 2012年10月 ～ 2014年10月 |
| Mrs. Therezia Joseph Migezo | 女  | 41 | 看護助手 | TAHO Ipuli Health Centre   | Nkinga School of Nursing                  | 看護師     | 2011年8月 ～ 2014年8月   |
| Ms. Agnes Michael Sylvester | 女  | 21 | 看護助手 | TAHO Kaliua Health Centre  | Sumve Nurses and Midwives Training School | 看護師・助産師 | 2011年9月 ～ 2013年9月   |
| Ms. Hadija Yassin Mrisho    | 女  | 23 | 看護助手 | TAHO Kipalapala Dispensary | Kolandoto School of Nursing               | 看護師・助産師 | 2011年8月 ～ 2014年8月   |
| Ms. Devotha Tiho Mayombya   | 女  | 23 | 看護助手 | TAHO Lububu Dispensary     | Kolandoto School of Nursing               | 看護師・助産師 | 2010年9月 ～ 2013年9月   |
| Ms. Sophia Charles Malale   | 女  | 31 | 看護助手 | TAHO Lububu Dispensary     | Kabanga School of Nursing                 | 看護師・助産師 | 2011年9月 ～ 2014年9月   |
| Ms. Maria Simon Mnimbo      | 女  | 25 | 看護助手 | TAHO Ndala Hospital        | Kolandoto School of Nursing               | 看護師・助産師 | 2010年8月 ～ 2014年8月   |

### 【2－3】 協働プロジェクト（プロジェクト・りとり）

（Project “LITTLE” = “Living together with the People”）

協働プロジェクトとは地域の保健医療に関する問題解決のために JOCS が現地の相手団体とともに活動を実施する活動である。計画段階では双方が知恵を出し合い、実施段階では主に相手団体が活動を進め、JOCS は資金的、技術的支援を必要に応じて行い、モニタリングと評価はまた協働で実施することで進められる。

#### （1）BDP 学校保健教育プロジェクト（バングラデシュ）

プロジェクト期間：2010 年 4 月～2015 年 3 月（本年は 4 年目）

相手団体：BDP（Basic Development Partners）

本年度は以下の活動を行った。

##### ・ 中間評価

目的：残り期間のプロジェクトをより効果的に行うための協議を行う。

訪問先：BDP 本部（ダッカ）、BDP スクール（ダッカ、プバイル）

期間：2013 年 6 月 4 日～6 月 13 日

方法：1)BDP との協議、2)関係する書類の検討、3)学校の視察（環境の整備－トイレ、井戸、ゴミ箱など）、4)子どもの観察（行動、態度、外見）、5)子ども・親・教師へのインタビュー（健康に対する知識と意識）

結果：進捗状況の確認と、それをふまえた今後の計画の再構築を行った。また、プロジェクトによる子どもの行動変容が認められた。

- ・ 全学年で保健教育の授業を行った。使用した教材については、教員からのフィードバックを取り入れ改訂作業を行い、2014 年 1 月からは改訂版の教材を使用した。
- ・ 身体測定は 2013 年 11 月に全校（14 校）で実施した。
- ・ 思春期女子への講習 中間評価時に、BDP の高校での実施を決め、2013 年 11 月に第 1 回を実施・生徒の身体測定を 2013 年 8 月と 11 月に実施した。健康診断は、中間評価時の見直しで今後実施しないこととした。



BDP の運営する小学校の授業風景

- ・ ゴミゼロデイを 2013 年 5 月 30 日に開催した。
- ・ 2013 年 10 月 15 日の World Hand Washing Day（世界手洗い日）に併せてヘルスフェスティバルを開催した。
- ・ 2013 年 5 月、9 月に実施予定だった担当教員に向けた講習（フォローアップトレーニング）は、バングラデシュの治安状況の悪化のため教員の移動が困難となり、実施できな

かった。

- ・救急箱やゴミ箱などの状況を毎月確認し、必要であれば補充を行った。
- ・生徒たちの母親向け講習会を 2013 年 9 月に実施した。

(2) TAHO 診療統計分析能力強化プロジェクト (タンザニア)

プロジェクト期間：2013 年 9 月～2016 年 8 月

相手団体：TAHO (Tabora Archdioces Health Office)

2013 年 9 月、タンザニアで新たな協働プロジェクトである「診療統計分析能力強化プロジェクト」を開始した。このプロジェクトでは、タボラ大司教区保健事務所が、傘下の 11 の保健医療施設の医療データを収集、分析、フィードバックができるようになることを目指しており、このプロジェクトにより、各保健医療施設が地域の保健状況を客観的に把握し、保健医療サービスの改善や強化ができるようになることが期待されている。

11 月、タンザニアへ出張し、プロジェクトの進捗状況確認を実施した。出張を機に未回収のデータを収集するとともに、データ記入シートを現在の状況にあわせて改良した。

(3) 新規 カンボジア協働プロジェクト

協働プロジェクトを新規で開始するにあたり、以下の団体とその活動を訪問して、ヒアリング調査を行った。

- ・バットバン司教区が運営するヘルスセンター及び周辺の村、同司教区で活動している Ursuline of Roman Union (修道会)、同司教区内にあるトンレサップ湖の水上村のコンポンルアン教会の保健衛生プロジェクト
- ・カトリック信徒宣教者会 (JLMM) プノンペンがごみ集積所 (ストゥミンチャイ) で行う支援プロジェクト

昨年度の調査と合わせて検討した結果、カンボジア北西部のバットバン州において活動している Ursuline of Roman Union をカウンターパートとした保健教育活動の協働プロジェクト実施に向けて検討を進めることとした。

## 3. 国内諸活動

### 【3－1】 国内活動全般

#### （1）健康を考えるワークショップ

今年度は学校法人聖書学園千葉英和高校サマーキャンプで、「健康」をキーワードにしたワークショップを開催した。高校1年生から3年生23名が参加した。途上国が抱える保健医療問題を把握することを目的とし、導入として、バングラデシュ、タンザニアの保健医療事情を説明した。その後、日本の保健医療データと比較し、健康を守るために必要なこと、現在自分たちにできること、将来したいことを共に考える機会をもった。

#### （2）地区 JOCS 活動

仙台・足利・町田・京都・大阪・神戸・芦屋・四国高知

2013年度中に開催された地区 JOCS イベントは以下のとおり。

| 仙台 JOCS   |                                      | 参加  |
|-----------|--------------------------------------|-----|
| 9/15      | 地球フェスタに出展（仙台国際センター）                  | -   |
| 足利 JOCS   |                                      |     |
| 12/14     | 足利市民クリスマス（足利市民プラザ小ホール）               | 230 |
| 町田 JOCS   |                                      |     |
| 10/27     | 教会バザーに出展（カトリック町田教会）                  | -   |
| 京都 JOCS   |                                      |     |
| 4/6       | チャリティウォークソン（京都鴨川河川敷）                 | 中止  |
| 7/19      | チャリティコンサート（京都府アルティ）                  | 465 |
| 大阪 JOCS   |                                      |     |
| 7/12      | 大阪 JOCS カフェ 乾眞理子元短期ワーカー報告会（大阪聖パウロ教会） | 28  |
| 10/26     | 大阪 JOCS カフェ マガフ範子元ワーカー報告会（大阪聖パウロ教会）  | 20  |
| 神戸 JOCS   |                                      |     |
| 7/6       | 乾眞理子元短期ワーカー報告会（日本基督教団雲内教会）           | 33  |
| 芦屋 JOCS   |                                      |     |
| 11/24     | 石本馨元短期ワーカー報告会（日本基督教団芦屋岩園教会）          | 66  |
| 四国高知 JOCS |                                      |     |
| 6/22      | 乾眞理子元短期ワーカー報告会 四万十集会（日本基督教団中村栄光教会）   | 14  |
| 6/23      | 乾眞理子元短期ワーカー報告会 高知集会（日本基督教団高知教会）      | 35  |
| 10/5～10/6 | 高知スタンプショウに出店（高知イオン）                  | -   |

(3) チャリティー映画会

日時：2014 年 3 月 5 日（水）

場所：亀戸文化センター カメリアホール

上映作品：日本映画「いのちの山河～日本の青空Ⅱ～」

来場者：昼の部 94 名

夜の部 60 名

奨学金指定募金：135,360 円

沢内村の村長と村民が思いを一つにして「豪雪・貧困・多病」という問題に立ち向かう「いのちの山河～日本の青空Ⅱ～」を上映。

そのほか、JOCS の活動紹介を目的として、本編上映前に 50 周年記念 DVD「カシ ナマ ジュパン」を上映し、アジア・アフリカの保健医療従事者育成を支援してもらえよう  
お願いし、奨学金指定の寄付を募った。

(4) 仙台・石巻 見る聞く出会う旅

日程：2013 年 9 月 6 日（金）～7 日（土）

訪問地：仙台・石巻（日本キリスト教団東北教区被災者支援センターの活動地）

参加者：12 名（女性 10 名、男性 2 名）

内容：東日本大震災から 2 年半経った被災地の状況を視察し、必要な支援について考えた。被災者支援センターの活動を見学し、どのようにして被災者の方々と信頼関係を築いて活動してきたかを学んだ。

(5) 関西事務局主催イベント「岩手県・釜石の現状を知る」

日時：2013 年 10 月 19 日（土）

場所：JOCS 関西事務局

参加者：10 名

講師：森脇妙紀（高野山真言宗不動寺副住職）

**[3-2] ワーカー育成プログラム**

(1) 海外保健医療協力セミナー

日 程：2013 年 12 月 29 日（日）～30 日（月）

場 所：横浜市中区寿地区

テーマ：草の根の人々と働く姿勢を学ぶ

～国際協力を志す保健医療者が知っておきたい日本の課題 ー 貧困、高齢化 ー  
横浜寿地区に泊まり、炊き出しに参加する 2 日間

目 的：寿地区で働く人々と接して、日本国内にも存在する貧困や健康の問題を知る。

### 3. 国内諸活動

それを通して、国際協力にも共通する必要な姿勢を学ぶ。

参加者： 9名（男性6名、女性3名）

【医師1、看護師1、看護学生1、作業療法士1、無職3、他2】

【会員6名、非会員3名】

プログラム概要：

- ①なか伝道所礼拝
- ②スープ作り切り込み作業
- ③寿地区について なか伝道所 渡辺英俊牧師より
- ④JOCS ワーカー予定者の話
- ⑤夜回り
- ⑥医療班の活動に参加
- ⑦福島被曝労働問題の勉強会 被曝労働を考えるネットワークより
- ⑧越冬闘争について 寿日雇い労働組合 近藤昇氏より
- ⑨炊き出し配食（希望者）

#### （2）海外保健医療勉強会

今年度は、以下のとおり、計6回の勉強会をJOCS 東京事務局にて開催した。うち3回は、「看護師の立場から国際協力 看護師の可能性」をテーマとし、看護師の資格を活かして国際協力に関わってきた講師がキャリア形成や現場の活動について勉強会を行った。（講師敬称略）

##### 第1回

日 時：2013年4月12日（金）18：30～20：30

参加者：10名（女性8名、男性2名）

【学生2 看護師4 助産師1 保健師1 会社員1 その他1】

【会員0名 非会員10名】

題 名：感染症 感染症看護

講 師：堀成美（国立国際医療研究センター 国際感染症センター）

内 容：「感染症対策に必要なケアの視点」をテーマとし、感染症と他の病気の違いや、感染症対応、感染症のゴール設定やケアの枠組みなど、事例を交えて説明した。

##### 第2回

日 時：2013年6月14日（金）18：30～20：30

参加者：20名（女性16名、男性4名）

【助産師4 看護師3 学生2 大学院生1 医師1 保健師1 看護教員1

理学療法士1 パート・主婦1 不明5】

【会員4名 非会員16名】

題 名：看護師の立場から国際協力 「タンザニアでの3年間の母子保健活動を通して」  
講 師：マガフ範子（助産師・タンザニア派遣元ワーカー2007～2009）  
内 容：妊産婦死亡率の世界の現状、派遣先での母子保健活動を説明した。現地の人材育成が重要であるため、ワーカー派遣後に講師が主体的に関わっているタボラ地区の看護学校開校支援プロジェクトについても紹介した。

### 第3回

日 時：2013年8月10日（土）17：00～19：00

参加者：16名（女性12名、男性4名）

【看護師7 看護学生4 会社員1 編集者1 JOCS理事1 不明2】

【会員2名 非会員14名】

題 名：「看護の国際協力ーカンボジアでの活動と帰国後のキャリア」  
講 師：柳澤理子（愛知県立大学看護学部教授・カンボジア派遣元ワーカー1989～1995）  
内 容：ワーカーになるまで、カンボジアでの保健医療活動（結核対策、母子保健活動）、帰国後の3部構成で、講師の経験や、経験の中から学んだことを、今後、国際協力の道に進もうとする参加者へのアドバイスを含めて語られた。勉強会後にキャリア相談の時間を設けた。

### 第4回

日 時：2013年9月27日（金）18：30～20：30

参加者：6名（女性3名、男性3名）

【学生1 養護教諭1 医療従事者1 会社員1 JOCS理事2】

【会員3名 非会員3名】

題 名：「被災地におけるメンタルヘルスケア」  
講 師：白石仁美（カウンセラー、JOCSより釜石派遣）  
内 容：講師が、被災地やカリタス釜石での活動の様や体験談を語った。その後、「災害時のメンタルヘルスケア」と題し、共感するとはどのようなことかを、ワークショップを交えて講義が行われた。

### 第5回

日 時：2013年12月14日（土）17：00～19：00

参加者：10名（女性8名、男性2名）

【看護師6 学生1 翻訳家1 JOCS理事2】

【会員2名 非会員8名】

題 名：看護師の立場から国際協力  
「インドネシアでの保健医療活動の経験を通して」  
講 師：八田早恵子（名桜大学人間健康学部看護学科助手）

### 3. 国内諸活動

内 容：講師のキャリア形成に関してそれぞれの時代の経験を語った。またインドネシアにおける JICA の草の根技術協力の「南スラウェシ州地域保健運営能力向上プロジェクト」の内容と、JOCS の 50 周年記念 DVD 製作を通して感じたことなど、JICA のプロジェクトと NGO の違いなども含め、看護師としての働き方の多様性を話した。

#### 第 6 回

参加者：合計 12 名（女性 8 名、男性 4 名）

【看護師 2 学生 2 医師 作業療法士 歯科衛生士 元助産師 主婦 郵便局員  
各 1 JOCS 理事 2】

【JOCS 会員 4 名 非会員 8 名】

題 名：バングラデシュの田舎のクリニックで活動して

講 師：乾 眞理子（医師、元短期派遣ワーカー2010-2013）

内 容：バングラデシュの概要、村の生活や文化、講師が活動にあたって大切にしていたことを交えながら、カイラクリクリニックのヘルスプロジェクトの様子が紹介された。

#### （3）読書カフェ

講義形式の勉強会以外のかたちで、勉強の機会を提供する試みとして、読書カフェを開催した。国際協力に関する本を読んで、内容の協議や感想の分かち合いを行った。毎回 4 - 5 名の参加者があった。

課題図書：「国際協力ってなんだろうー現場に生きる開発経済学」（岩波ジュニア新書）

開催日：毎月第 3 金曜日（8 月、3 月を除く） 19：00～20：00

#### 【3－3】 東日本大震災被災者支援

被災者支援は、2013 年度も引き続き仙台・釜石・いわき・福島の地域で、地元の支援団体の活動に協力をする形で支援を行った。

##### （1）宮城県仙台市・石巻市（協力先：東北教区センター・エマオ）

##### 日本キリスト教団東北教区センタースタッフ雇用サポート

被災者支援を行っている日本キリスト教団東北教区センターのスタッフ（仙台 JOCS メンバー）の人件費をサポートした。

被災者支援センターでは、仙台市若林区で被災家屋の修復や仮設住宅での交流イベントの企画、石巻市では仮設住宅の被災者ケアや交流イベントの企画、在宅被災者への支援などを行った。被災者支援センターの活動の詳細は公式ブログ

<http://ameblo.jp/jishin-support-uccj/>をご覧ください。

(2) 岩手県釜石（協力先：特定非営利活動法人カリタス釜石）

**看護師チーム派遣（ほぼ3ヵ月毎）、及び看護師派遣（ほぼ毎月）**

定期的に看護師チームを派遣し、主に仮設住宅や孤立集落の被災者の訪問ケア活動（傾聴や血圧測定、健康相談など）とカリタス釜石のケア活動に協力を行った。5月、9月、12月、3月に看護師チームが約1週間ずつ釜石を訪問し、延べ20人の看護師が活動に参加した。

また2013年度は看護師チームの活動とは別に、1名の看護師をほぼ毎月釜石へ派遣し、カリタス釜石のケア活動に協力を行った。

**カウンセラー派遣（毎月）**

毎月1名のカウンセラーを派遣し、教会および仮設住宅での被災者の傾聴活動や「お茶っこサロン」（被災者同士の交流活動）に協力した。また支援者のケアやカウンセリング、スタッフ・ボランティア対象の心のケアに関する研修、祈りの会などに協力を行った。

カリタス釜石の活動の詳細は公式ブログ <http://ameblo.jp/kamaishi311/> をご覧いただきたい。

(3) 福島県いわき市

いわき市社会福祉協議会の要請により、いわき市仮設住宅集会所（いわき市中央台高久第一集会所）に月2回医師及び保健師を派遣し、健康相談を実施した。仮設住宅は189戸で、170世帯の被災者の方が居住している。JOCSの健康相談は、毎月第2・第4金曜日の午後に行い、血圧測定や個別の健康相談、音楽にあわせての体操などを行った。

(4) 福島県内児童養護施設

「特定非営利活動法人福島県の児童養護施設の子どもの健康を考える会（略称：ICA 福子）」をパートナー団体として支援している。福島県内の児童養護施設に入所している子どもたちの健康状態を把握し、放射能による健康被害の早期発見と早期治療を行うための活動を支援した。

個人被ばく線量測定サービス（クイクセルバッチ）着用支援

福島市の「青葉学園」及び「福島愛育園」で、入所している子ども及び職員の着用を支援した。被ばく線量が高い人については、その行動から原因を明らかにし、生活の仕方を工夫するよう、ICA 福子から施設に助言した。

超音波診断装置による甲状腺検査支援

1年毎に甲状腺検査を行うことにより、



医師による甲状腺検査

### 3. 国内諸活動

甲状腺の異変の早期発見・早期治療に役立てることを目的に、児童養護施設に医療従事者を派遣し、検査を実施した。「福島愛育園」「青葉学園」「いわき育英舎」で実施した。入所後も住民票を施設に異動できないために公的な検査の通知が来ない子どもを中心に検査することができた。

#### 事務所職員人件費支援

「福島県の児童養護施設の子どもの健康を考える会」の事務所体制強化のため、事務の補佐を行う非常勤職員人件費の一部を支援した。

#### <被災者支援募金報告>

募金総額：23,139,835 円

(2010 年度 70,000 円、2011 年度 12,153,111 円、2012 年度 6,088,125 円、  
2013 年度 4,828,599 円)

2013 年度末までに使用した金額の内訳は、以下のとおりである。

(単位：円)

| 活動地        | 2011 年度   | 2012 年度   | 2013 年度   | 合計         |
|------------|-----------|-----------|-----------|------------|
| 宮城県仙台市     | 877,760   | 960,600   | 936,000   | 2,774,360  |
| 岩手県釜石市     | 1,588,740 | 1,900,595 | 1,854,956 | 5,344,291  |
| 福島県いわき市    | 55,290    | 945,745   | 449,570   | 1,450,605  |
| 福島県内児童養護施設 | 987,000   | 2,554,614 | 810,370   | 4,351,984  |
| その他        | 80,749    | 277,071   | 0         | 357,820    |
| 合計         | 3,589,539 | 6,638,625 | 4,050,896 | 14,279,060 |

残額 8,860,775 円は、2014 年度以降の活動に使用する。

#### 【3－4】 広報

(1) 会報「みんなで生きる」

- ・2013 年度は7回発行。(6,000～6,200 部／回)。A4 版・16 または 20 ページで編集し、会員・寄付者・一般へ送付した。
- ・隔月発行とし、10・11 月号と 12・1 月号の間に「子ども号」を発行した。
- ・JOCS の活動に即した記事を中心に、毎号行っているアンケートも参考にしながら委員会で誌面構成を検討し、編集した。
- ・夏期募金依頼書と共に年次報告書が送付されることになったので、6・7 月号は4 頁仕立てにした。
- ・「子ども号」は16 頁仕立てで、表・裏表紙と、中の4 頁分をカラー印刷にした。他の頁は2 色刷りにした。

- ・12・1月号はクリスマス号でもあるので、表・裏表紙と中の4頁分をカラー印刷にした。
- ・「みんなで生きる」の特集は、以下のとおりとした。
  - 4・5月号 インタビュー タンザニアの子どもたちと共に…倉辻忠俊ワーカー
  - 8・9月号 第52回 JOCS 定時社員総会報告
  - 10・11月号 バングラデシュ学校保健教育プロジェクト中間報告
  - 子ども号 使用済み切手で保健医療協力を
  - 12・1月号 JOCS の仲間からのクリスマスメッセージ
  - 2・3月号 将来を担う世代を育てる JOCS の奨学金支援

毎号の掲載は、小島会長の巻頭言、JOCS と私、ワーカーからの手紙、切手部通信、Kids JOCS、ときのことば、総主事デスクから、新入会者報告、ワーカー募集。

その他は、海外保健医療協力者会議報告、東日本大震災被災者支援活動報告、JOCS 切手の日に届いたお便り、バングラデシュ学校保健教育プロジェクト報告、タンザニア協働プロジェクト報告、奨学生の横顔、被災地訪問報告、本部と各地区イベントのお知らせと報告、JOCS 質問箱、協力募金のお願いなど。

## (2) 年次報告書

これまでの会報「みんなで生きる」総会特集号に代わるものとして、支援者へ活動内容や成果をわかりやすく報告することを目的とし、前年度（2012 年 4 月から 2013 年 3 月）までの海外事業、国内の活動、会計報告をまとめた年次報告書を発行した。1 年間の活動の成果を、受益者の声や、数値で表わせるよう、活動内容を簡潔に記すよう工夫をした。会報「みんなで生きる」6・7月号、年次報告書に関するアンケート、夏期募金趣意書を同封して発送した。

## (3) ホームページ

2013 年度は、ホームページをリニューアルした。見やすいデザインで統一され、アクセス数が増えた。

## (4) 視聴覚資料（DVD、写真パネル、切手紙芝居）

今年度は、DVD の貸出依頼が、年間 8 件（うち 7 件は 50 周年記念 DVD）であった。現在、JOCS における貸出可能な視聴覚資料は下記のとおりである。貸出可能な DVD においては、すべて YouTube のサイトに掲載し、ホームページから視聴ができる。

### <DVD/VHS>

- ・50 周年記念 DVD「カシ ナマ ジュパン」/「心をひらいて」(DVD のみ)
- ・日本のお友達へ
- ・アジアの呼び声に応えて
- ・エイズと向き合う

### 3. 国内諸活動

- ・クメールの人々とともに
- ・使用済み切手でアジアに医療協力を
- ・日本のお友だちへ
- ・はるかなるネパールの村へ
- ・オカルドゥンガ診療所にて
- ・世界の屋根のヒゲ・ドクター
- ・ノーレンの目が見えた
- ・ヒマラヤの結核キャラバン

#### <写真パネル>

- ・ワーカーの活動地
- ・「みんなで生きる」表紙

#### <ホームページからダウンロード>

- ・使用済み切手運動紙芝居

#### (5) 出版物・マスコミへの掲載

キリスト教界での周知を図るため、「百万人の福音」「信徒の友」のキリスト教雑誌 2 誌へ広告の掲載を行った。1 月号では、冬期募金の協力依頼を含めた 1 頁、その他の月は縦・1/3 頁の広告を掲載した。「百万人の福音」4 月号には、使用済み切手運動についての記事が掲載された。

また、日本テレビ「ニュース every」の特集で、使用済み切手運動について放映された。広告以外の掲載は以下のとおり。(付録参照)

- ・2014 年 1 月 7 日放映：ニュース every
- ・2014 年 3 月 10 日発行：百万人の福音
- ・2014 年 3 月 12 日発行：婦人之友

#### (6) 広報改革タスク

前年に引き続き、理事の平本実氏と事務局 3 名で構成し、広報改革のための具体案を検討するために、2 回タスクミーティングを開催した。

#### 2013 年度の広報改革タスクの目的：

「広義の広報」を強化し、効果的な広報・広告活動を行うための組織のあり方について検討を行う。2014 年度からの実施を目指し、具体的案を事務局・理事会に提案する。

協議の結果、以下の内容を広報改革タスクから、事務局と理事会に提案した。

- ①広報、広告、国内活動を含めた「広義の広報」を包括して強化するため、「マーケティング」という概念を用いる。
- ②マーケティング目標達成のための業務の効率化、方針の統一、モニタリングの簡便化

を図るため、現状の広報委員会、国内活動委員会を解体し、事務局職員を責任者としたタスクチームあるいは補佐組織といったものに改編する。

- ③マーケティング業務全体を統括するマーケティング・マネージャーを事務局内に設置する。

### 【3－5】 募金

今年度の募金協力件数は以下のとおりである。

| 2013 年度       | 依頼数      | 協力件数    | 協力率   | 寄付金総額       |
|---------------|----------|---------|-------|-------------|
| 夏期募金          | 15,913 件 | 2,462 件 | 15.5% | 約 2,611 万円  |
| 冬期募金          | 16,774 件 | 5,537 件 | 33.0% | 約 5,595 万円  |
| その他の募金        | —        | —       | —     | 約 858 万円    |
| 東日本大震災被災地支援指定 | —        | —       | —     | 約 483 万円    |
| 奨学金指定         | —        | —       | —     | 約 1,674 万円  |
| 海外保健医療協力指定    | —        | —       | —     | 約 310 万円    |
| 総計            | —        | —       | —     | 約 11,531 万円 |

夏期募金は「みんなで生きる」6・7月号に加え、年次報告書に、募金趣意書、払込用紙を同封する方法をとったところ、寄付金総額が前年度比 144%となった。冬期募金は、JOCS の活動地の受益者の声を掲載した。夏期・冬期募金の趣意書に、会員募集の旨を載せたところ、会員へと移行した寄付者が 24 名あった。また冬期募金の趣意書を過去 1 年間の新規切手協力者と教会 997 件に発送し、そのうち 31 名から新規の募金協力があつた。一般寄付の他、特別寄付や奨学金指定、海外保健医療協力指定、国別指定、東日本被災者支援指定の寄付が集まった。

### 【3－6】 使用済み切手運動

2013 年度の切手受託累計と本会計繰入額は、前年度と比較し以下のとおりであった。

|            | 2012 年度  | 2013 年度    |
|------------|----------|------------|
| 使用済み切手収益   | 2,058 万円 | 2,146 万円   |
| 使用済み切手受託件数 | 16,706 件 | 14,152 件   |
| 〃 受託量(Kg)  | 2,300Kg  | 11,017.5Kg |
| 書き損じハガキ収益  | 126 万円   | 90 万円      |
| 事業収益合計     | 2,184 万円 | 2,236 万円   |

### 3. 国内諸活動

2012年に引き続いて使用済み切手の受託や換金自体は微減であるが、外国コイン類や書き損じはがきなどの収入増加もあり、実質的な使用済み切手換金額は増加している。梱包材料費など、節約できる資材類のコスト削減に努めた。

#### 切手タスク

2013年度は、使用済み切手運動収集を広める目的で、以下のイベントを開催した。

2013年7月15日：聖公会三重教区 切手運動の説明と切手整理体験

2014年2月28日～3月2日 山口県防府市「第5回切手まつり in 山口」

#### **【3－7】 JOCS 関西バザー**

5月11日（土）に第19回関西 JOCS バザーが大阪聖パウロ教会にて開催された。今年のバザーは、大阪聖パウロ教会の4階の部屋を借り、例年より広く売り場面積を確保できた。ただ、エレベーターのない4階ということもあり、年配の方には負担が大きかったと思われる。バザー詳細は、**【4－4】委員会**（1）関西地区活動委員会（31ページ）の報告を参照。

#### **【3－8】 講師派遣プログラム**

JOCSの活動や使用済み切手運動の紹介のため、依頼に応じて事務局内外から講師を派遣している。帰国中のワーカーが報告会として対応をしたものを含め、問い合わせのあった以下の諸団体（21団体）に講師を派遣した。

2013年

4月：北海道 YMCA

5月：女子学院中学校・高等学校

6月：近江兄弟社中学校・高等学校、日本基督教団喬木教会、天神橋ライオンズクラブ

7月：桃山学院大学国際教養学部、明治学院東村山中学校、明治学院東村山高等学校

8月：千葉英和高校

9月：横浜共立学園

10月：青山学院大学、新宿区社会福祉協議会山吹町地域交流会館、堺川尻教会、神戸聖愛教会

11月：聖隷クリストファー大学、日本基督教団むさし小山教会、京都 YMCA

12月：恵泉女学園中学・高等学校、同仁美登里幼稚園

2014年

1月：土浦めぐみ教会付属マナ愛児園、

3月：横浜 YMCA 学院専門学校

### 【3－9】 事務局見学受入

JOCS の活動内容や、使用済み切手運動について、学ぶ機会を提供するため、中学生・高校生のグループをはじめとする事務局訪問の受け入れを行っている。今年度は、学校や教会など、計 10 団体の訪問があった。

＜東京事務局＞ （7 団体 66 名）

盛岡市立下小路中学校、青山学院初等部宗教プロジェクト、仙台市立長町中学校、東京文理学院、恵泉女学園中学校、香蘭女学院バザー委員会、新宿区社会福祉協議会使用済み切手ボランティアグループ

＜関西事務局＞ （3 団体 42 名）

大阪産業大学、大阪西ロータアクトクラブ（＊2 回訪問）、ロングライフグループ

### 【3－10】 ネットワーク活動

現在、「国際協力 NGO センター（JANIC）」「関西 NGO 協議会」「障害分野 NGO 連絡会（JANNET）」「カンボジア市民フォーラム」に加入している。JANIC では、NGO の組織力強化のための研修企画に協力した。カンボジア市民フォーラムでは、世話人として運営の一端を担うほか、2 ヶ月に 1 回のセミナー開催への協力やニュースレターの執筆をした。JANNET では、担当職員が監事に就任し、運営に携わった。

また、国際協力を主たる事業とする公益法人の情報交換ネットワーク「公益法人 NGO 連絡会」（JANIC 正会員ワーキンググループ）のメンバーとして、3 ヶ月に 1 回開催される会議に出席し、公益法人の健全な組織運営のための情報及び経験の共有等を行っている。

### 【3－11】 隅谷三喜男先生召天 10 周年記念講演会

隅谷三喜男 JOCS 元会長（1978－98 年）の召天 10 周年記念講演会のために実行委員会が組織され、JOCS がその事務局を担った。実行委員会は、隅谷会（東京大学）・東京女子大学・恵泉女学園・聖学院大学・日本基督教団代田教会・元筑豊の子どもを守る会・賀川豊彦学会・アジアキリスト教教育基金（ACEF）及び JOCS の 9 団体で構成された。

記念講演会（会場：東京女子大学）は、「現代アジアの課題とキリスト教使命」と題した姜尚中先生（聖学院大学全学教授）の基調講演、隅谷先生の記念映像、和田春樹先生（東京大学名誉教授）・加山久夫先生（明治学院大学名誉教授）を交えた鼎談を行う予定であった。しかし、記念講演会（10 月 26 日）直前の台風接近による天候不良が見込まれたため、やむなく中止となった。

## 4. 運営会議

### 【4－1】 第52回定時社員総会

2013年6月1日(土)午後1時より、東京都新宿区の早稲田奉仕園リパティホールにて、43名の社員の出席と249通の委任状、26通の書面表決を以って開催した。議事に先立ち、タンザニア派遣元シニアワーカーの倉辻忠俊氏より「タボラの子どもたちとともに」と題した報告および植松功理事の奨励があった。その後、2012年度事業報告が行われ、議事である2012年度決算報告、新理事の選任が承認・決議された。議案審議の終了後には、2013年度事業計画と収支予算を説明した。続けて、JOCSが支援している「福島県の児童養護施設の子どもの健康を考える会」共同代表の澤田和美氏より会の活動報告があった。その後、第5回JOCS海外保健医療協力者会議（ネクステ会議）準備委員長の弓野綾氏より会議の報告がなされ、任期を終了し帰国した宮川眞一元ワーカーと乾眞理子元短期ワーカーより帰国挨拶がなされた。

### 【4－2】 理事会

定例理事会は、以下の日程、場所で開催した。

|       |        |       |
|-------|--------|-------|
| 2013年 | 4月27日  | 東京事務局 |
|       | 6月22日  | 東京事務局 |
|       | 8月31日  | 東京事務局 |
|       | 10月5日  | 東京事務局 |
|       | 11月30日 | 東京事務局 |
| 2014年 | 1月18日  | 東京事務局 |
|       | 2月15日  | 東京事務局 |
|       | 3月15日  | 東京事務局 |

なお、今年度の理事ならびに監事は次のとおり。

理事：小島莊明（会長）、畑野研太郎（常務理事）、植松功、大江浩（総主事）、  
大友宣、高梨愛子、仁科晴弘、平本実、森田隆（海外担当主事）、渡部芳彦  
監事：小澤英輔、辻本嘉助

### 【4－3】 運営協議会

理事会の諮問を受けて、2013年10月5日に「会員維持・獲得のためのマーケティング」をテーマとして開催した。理事、監事に加えて広報委員、国内活動委員、事務局が出席し、協議を行った。

#### 【4－4】 委員会

##### （１）関西地区活動委員会

委員長：船戸正久

委員：宇山進、大谷透、彼谷廣子、加輪上敏彦、酒井照子、島田恒、諏訪恵子、高谷泰市、  
畑野めぐみ、榛木恵子 和田浩

監事：辻本嘉助

列席者：中村満子（神戸 JOCS）

①隔月に開催している委員会では、各地区 JOCS の活動報告、募金報告、バザー、関西 JOCS のつどいに関する協議・反省などを行った。

②毎年恒例の関西 JOCS バザーは、2013 年 5 月 11 日（土）に大阪聖パウロ教会を借用して開催し、昨年同様のべ 100 名以上のボランティアの方々の協力のおかげで入場者約 330 名、純利益 1,376,134 円の内、約 20 万円を次回バザーの準備金とし、残金を JOCS へ寄付した。年々、使用済み切手も集まるようになり、今回は約 23 キロ集まった。

③「関西 JOCS2014 映画会」として、2014 年 2 月 11 日にドキュメンタリー映画「僕のうしろに道はできる」を芦屋駅前、ラポルテホールにて開催した。映画上映の他、カンボジア派遣元ワーカーの諏訪恵子さんの挨拶もあった。

180 席の会場に、193 名の来場者があった。（チケットは 1 枚 1,000 円）

④次年度の関西での「使用済み切手運動 50 周年記念イベント」について協議した。

##### （２）研修生・奨学金委員会

委員長：柳澤理子

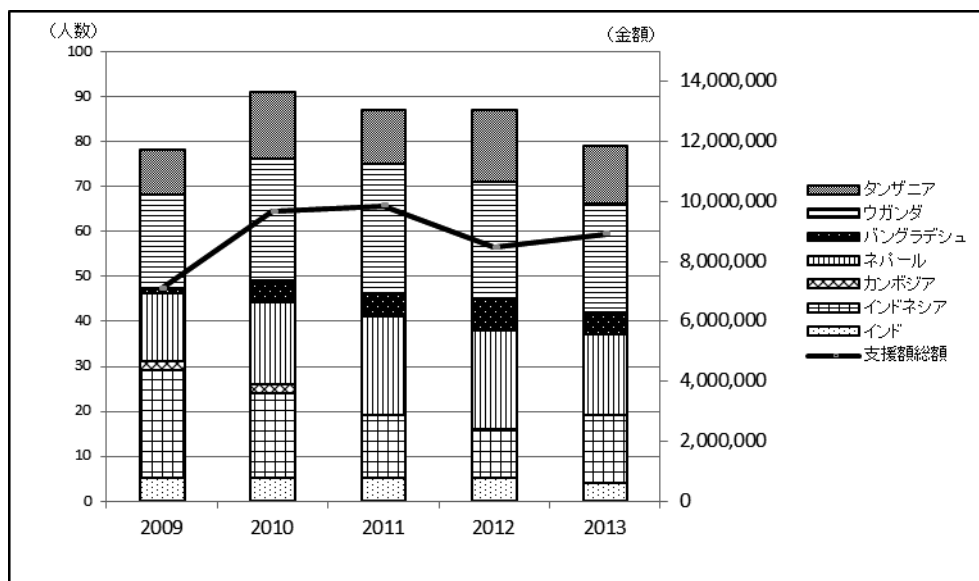
委員：小宅泰郎、諏訪恵子、細谷たき子、宮崎雅、山崎眞由美

##### ①2013 年度奨学金選考結果

| 対象国     | 2013 年度 |        |
|---------|---------|--------|
|         | 希望者数    | 支給決定者数 |
| インド     | 0       | 0      |
| インドネシア  | 2       | 1      |
| ネパール    | 5       | 3      |
| バングラデシュ | 1       | 1      |
| ウガンダ    | 28      | 8      |
| タンザニア   | 6       | 2      |
| 合 計     | 42      | 15     |

#### 4. 運営会議

##### ②過去5年間の奨学生数と給付額の推移



##### ③その他

今年度は、奨学金の選考回数を1回(8月)のみとし、もう1回の委員会では今後の奨学金支援の在り方や重点課題に関する検討、各種フォームの見直しなどを行った。

選考に関しては、2013年度支給予算1,000万円のうち7,215,561円は、前年度までに承認された奨学生への継続支給(研修が複数年に渡るため)であった。従って、2013年度は2,784,439円におさまるように、支給を決定した。

今年度のフォローアップはウガンダで行い、奨学生や元奨学生、支給団体の責任者と話し合うことができた。また、スタディツアーや職員の出張の機会を利用してバングラデシュとタンザニアでもフォローアップを行った。

奨学生の現状を知り広報につなげるための取り組みとして、昨年を引きつづき、奨学生にクリスマスカードを送る際に近況報告をお願いする手紙を添えた。また、会報誌「みんなで生きる」で、毎号奨学生を紹介する欄を設けた。今後も同様の働きかけを続け、会報等を通じて会員・寄付者の方々へ奨学生からの声を発信していく。

#### (3) 広報委員会

委員長：宇山進

委員：大村竜夫、柏木牧子、須賀真弓、那須野幸子、平本実

2ヵ月に1回のペースで、6回のミーティングを開催した。

##### ① 「みんなで生きる」

今年度は7回発行(うち子ども号1回)。6,000~6,200部/月。詳細は[3-4] 広報

(1) 「みんなで生きる」(24ページ) 参照。

② 「JOCS フォーラム」

掲載すべき原稿が少なかったため発行を見送った。

③ 募金趣意書

夏期は、「みんなで生きる」6・7月号に趣意書を挟み込み、会員・寄付者に送付した。

冬期は11月に一斉発送した。

④ ボランティアテック

ミーティングを2回開催した（6月、11月）。

今後の活動について、話し合いを行った。

⑤ ホームページの活動

詳細は、【3-4】広報（3）ホームページ（25ページ）参照。

（4） 国内活動委員会

委員長：北澤肯

委員：新井ななえ、金井和夫、羽山直人、原口裕紀子、真鍋まり

今年度の国内委員会は昨年引き続き理事会より諮問された「会員増強・寄付拡大のためのプログラム企画・提案」について、JOCSの抱える問題、取り巻く環境、会員減少の現状と原因、そして他の団体がどのような体制でやっているかなどを調べ、議論を重ねてきた。

年3回の開催の予定であったが、既に議論は出尽くし、次は実施の段階であると判断したことから2回だけ開催し、ファンドレイジング、広報、キリスト教会・医療業界とのつながりに関して理事会への提言としてまとめ、委員会の活動を閉じた。

来年度は委員会開催を休み、企画実施後の評価チームを作ることを国内活動委員会から理事会へ提案した。また来年度以降の国内活動委員会は休止し、担当スタッフと共にタスクとして活動していくことを提案し、理事会によって承認された。

また新井委員、金井委員を中心として9月6日、7日に「仙台・石巻 見る聞く出会う旅」を開催した。参加者12名とインターン2名、事務局の大久保職員が参加し実施された。参加者からも「今後の支援について考えていく」「今回見て、聞いたことをまわりの人に伝える」「祈りに覚え続ける」などの感想があった。

9月末に開催された第一回運営協議会に委員長がパネリストとして参加し、会員増強に関する問題提起と提案を行った。

（5） 財務委員会

委員長：畑野研太郎

委員：安藤淑子、佐藤光、中畠裕一

四半期ごとにJOCSの財政状況を正しく把握したうえで、健全かつ安定した財政運営への提言を理事会に対して行った。毎回の委員会で事務局から、財務状況や募金状況の報告を受け、財政運営が適正に行われていることを確認している。また、JOCSの5ヵ年計画

#### 4. 運営会議

2013 を鑑みて、大所高所から収支のバランスの検討も行った。

今年度、事務局会員管理システムアップグレード及び機器の購入が必要になったため、予算の補正案を理事会に提出した。ソフトウェアの発注は、予定していた業者の組織変更により契約できなくなったため 2014 年度とし、2013 年度は機器のみの購入となった。また年度後半には決算見込みを確認の上、次年度予算案を精査し、会長に提出した。

昨年度に引き続いて高額の寄付をくださった方にアンケートをお願いし、支援者が JOCS に求めるものを伺って委員会で共有している。会員や支援者獲得についても財務の立場から検討し、事務局に提言を行った。

##### (6) ワーカー育成委員会

委員長：植松功

委員：秋田公子、大友宣、黒川瞳、土井直彦、堀越春香

今年度は委員会を 3 回開催。海外保健医療勉強会、海外保健医療協力セミナー、JOCS 読書カフェを以下のように企画・実施した。

(詳細は[3-2]ワーカー育成プログラム(19~22 ページ)を参照。

- ・海外保健医療勉強会：「看護師の立場からの国際協力 ～看護師の可能性∞～」を共通テーマにシリーズ化して開催した。
- ・海外保健医療協力セミナー：前年に続き、横浜市中区寿地区を会場に 1 泊 2 日のプログラムを開催した。
- ・JOCS 読書カフェ：毎月 1 回開催され、「国際協力ってなんだろう」(岩波ジュニア新書)をテキストに、読書会を開催した。

##### (7) ワーカー派遣委員会

委員長：榛木恵子

委員：長尾真理 宮崎雅

- ・ワーカー派遣委員会(以下、委員会とする)では、ワーカー予定者との面接、理事会の決定より提示されたワーカー選考プロセスにおいて、委員会の役割を明確にするために、不明瞭な事項について理事会に質問状を提出した。

以前は、日本キリスト者医科連盟関係者が事前にワーカー志望者と関わり、ワーカーの働きが理解されてワーカー志望書が提出される経緯が多かったが、現在は応募の経緯が多様である。

応募者の現状、組織内部における面接の目的、採用基準が明確でない状況を踏まえて、派遣委員会では、ワーカーの応募から採用にいたる「手順」と採用の「基準」をガイドラインとして作成し、活用することが望ましいという結論に至った。

5 ヶ年計画 2013 では、ワーカー採用ガイドラインが作成される予定なので、「手順」を協議、検討し、理事会に提案することを委員会の目的とし、「基準」に関しては、次の検討事項とした。

評価ガイドラインを作成するためには、どのような人を採用して派遣したいかという意向が深く関連してくる。

DAC5 項目(妥当性、有効性、効率性、インパクト、持続性)を基準とした評価だけでなく、「JOCS の大事にしている価値」を評価できる仕組みを委員会で検討した。

- ・採用後の派遣前研修で、自己研修と団体内での研修の範囲に関して、時間を用いて協議を行った。
- ・現ワーカー予定者の派遣前研修については、委員会時に海外担当主事から報告を受けた。今後も、委員会として派遣前研修について、アドバイスを行う予定である。
- ・海外からのワーカー派遣依頼に関して、海外担当主事から報告を受けて協議し、理事会に報告した。

#### 【4－5】 5 ヶ年計画 2013

理事会は、これまでの 5 ヶ年計画の名称「今後 5 年間の方向性」を改めて「5 ヶ年計画 2013」とし、承認した。骨子は以下のとおりである。

##### <基本方針>

##### ービジョン

すべての人々の健康といのちがまもられる世界

##### ー使命

本会はイエス・キリストの教えに従い、困難の中にある人々の健康といのちを守り、苦悩・喜びを分かち合う

##### <目標>

一定数のワーカーを派遣し、奨学金事業及び協働プロジェクトを強化すると共に事業間の連携が活発に行われる。各事業を通して世界のキリスト教会との連携と他宗教との対話が促進される。これらの事業を実施するために必要な会員に支えられ、寄付を得て、収支均衡となる。

##### <アクションプラン>

5 ヶ年計画の目標を達成するために、大きく 2 つの分野—①海外事業部、②マーケティング部で、実施すべきことを下記のとおり、設定した。

##### ①海外事業部で実施すべきことー3 事業

ワーカー派遣事業は、何よりも弱くされた人々と共に生きることを喜びとし、困難を伴う活動に取り組む保健医療分野の人材を発掘・育成し派遣する。また女性・子ども・障がいのある人々・少数民族・HIV/AIDS と共に生きる人々・医療過疎地にある人々を重点対象として、奨学金事業及び協働プロジェクトを行う。

#### 4. 運営会議

またそれぞれの事業推進に必要なガイドラインなどを作成する。

##### ②マーケティング部で実施すべきことー5項目

会員数を一定数維持すること、日本の子どもたちが世界の現状を知り、活動に参加する機会を促すこと、JOCS が共に生きる人々の苦悩や喜びを日本の人たちと分かち合うこと、ボランティアや支援者の活動が活発化するような取り組みを行うこと、財政を健全化すること、などである。

#### 【4－6】 評価

##### (1) ネクステ会議モニタリング

前年度開催の第 5 回海外保健医療協力者会議（通称：ネクステ会議）の覚え書きを踏まえ、以下のとおり、会議後のモニタリングを行った。

目 的：

- ① 覚え書きにあるとおりに、理事会が期限までに「総会に改訂案を提案し、明文化し、明らかにし、振り返りを行い、実行可能性を検討したか」を確認する。
- ② 「今後 5 年間の方向性ステートメントとそれに基づくアクションプラン」にネクステ会議の覚え書きが反映されているかを確認する。

実 施：

2013 年 9 月～2014 年 6 月（3 ヶ月ごとに理事会で確認）とし、今年度は 2013 年 11 月 30 日の理事会で、モニタリングチームが作成した JOCS 第 5 回海外保健医療協力者会議（ネクステ会議）後チェックシートに基づいて確認した。計 2 回のモニタリングを通して、ネクステ会議覚え書きの 4 項目ごとに進捗状況をチェックし、2014 年 3 月理事会にて総括を行った。主要課題は、JOCS「基本方針」改定案や 5 ヶ年計画 2013 に反映される形となった。

モニタリングチーム：辻本嘉助、仁科晴弘、大江浩、森田真実子

##### (2) ワーカー自記式アンケート

ワーカー派遣後 1 年目、2 年目に行う自記式アンケートを以下のワーカーに行い、回答を理事会で検討した。

|          |                 |
|----------|-----------------|
| 岩本直美ワーカー | 1 年目 2013 年 5 月 |
| 青木盛ワーカー  | 2 年目 2013 年 9 月 |
| 山内章子ワーカー | 2 年目 2014 年 1 月 |

## 5. 事務局

＜総主事 大江 浩＞

2013 年度の主な事務局の動きは、下記のとおりである。

第 1 に、寄付拡大を目的として、新たに JOCS 年次報告書（16 頁）を制作し、「みんなで生きる」及び夏期募金趣意書に合わせて送付した。支援者の方々からは、「活動の成果や物語が分かり易く、更に応援したくなった」との声をいただくなど好評で、前年に比べて寄付増加につながるなどの効果があった。

第 2 に、IT 広報については、ホームページの改訂とフェイスブックでの積極的な情報発信を行い、ホームページからのご寄付が徐々に増えてきた。また支援者の拡大のために、職員 2 名が日本ファンドレイジング協会の准認定ファンドレイザーの資格を取得した。

第 3 に、海外事業における課題であった協働プロジェクトの計画策定と評価能力を強化するために、職員がプロジェクト・サイクル・マネジメント（PCM）や評価の研修に参加した。

第 4 に、東京事務局では、国内活動を担当する大学生インターン 2 名を通年で受け入れた。主に、「子どもたち向けに健康を考えるワークショップ」（青山学院初等部・横浜共立学園中学校）、「仙台・石巻を訪ねる旅」（協力：東北教区被災者支援センター）、グローバルフェスタ（日比谷公園）、チャリティ映画会（東京）を担当した。インターン 2 名からは、「企画から実施まで責任を持って担当できたことが喜びであった」との感想があり、インターン担当職員も年間を通じた指導を通して、成長する良い機会が与えられた。

第 5 に、使用済み切手運動 50 周年事業 2014 のために、切手タスクの担当職員を中心に、2014 年 9 月の東西の記念イベントやポスターコンクールなどの企画・準備を進めた。

第 6 に、4 月に東京事務局に入職したポンサヴァンのぞみの 7 月末退職に伴い、10 月より服部由起が入職した。

最後に、会員・ボランティアの方々のお支えのうちに無事終えることができ、心から感謝申し上げる。

＜スタッフ＞

|        |                                                                                      |
|--------|--------------------------------------------------------------------------------------|
| 総主事    | 大江浩                                                                                  |
| 海外担当主事 | 森田隆                                                                                  |
| 東京事務局  | 名取智子、大久保奈緒、小池宏美、高橋淳子、<br>ポンサヴァンのぞみ（～7月）、服部由起（10月～）、<br>森田真実子、山中信<br>温田彩心、桃野華恋（インターン） |
| 関西事務局  | 渋江理香、河野智恵                                                                            |

## 6. 社員会員・一般会員の現状報告

2014年3月31日現在

|      |        |
|------|--------|
| 社員会員 | 402名   |
| 一般会員 | 3,852名 |
| 合 計  | 4,254名 |

### 2013年度中の社員会員、一般会員の異動

#### 1. 社員会員

|                        |     |
|------------------------|-----|
| (1) 新しく社員会員となられた方      | 12名 |
| (2) 社員会員を辞し、一般会員となられた方 | 2名  |
| (3) 退会された方             | 15名 |

#### 2. 一般会員

|               |      |
|---------------|------|
| (1) 新たに入会された方 | 65名  |
| (2) 退会された方    | 279名 |

## 7. 2013年度の主な動き

### 4月

- 4日 石本馨短期ワーカー、バングラデシュに赴任
- 12日 海外保健医療勉強会（東京事務局）
- 12-21日 植松功理事、バングラデシュ出張
- 15日 ポンサヴァンのぞみ職員入局
- 21-25日 森田隆海外担当主事、パキスタン出張
- 27-29日 浅草スタンプショウに出店（都立産業貿易センター台東館）

### 5月

- 11日 JOCS 関西バザー（大阪聖パウロ教会）
- 17日 桜美林大学よりインターン2名受入れ開始（東京事務局）
- 17日 JOCS 読書カフェ（東京事務局）（以後、毎月第3金曜日に開催）
- 20-27日 森田隆海外担当主事、タンザニア出張
- 25-26日 広島スタンプショウに出店（広島県立産業会館）

6 月

- 1 日 第 52 回定時社員総会（早稲田奉仕園）
- 3－15 日 森田隆海外担当主事、高橋淳子職員（－13 日）、協働プロジェクト中間評価のため、バングラデシュ出張
- 14 日 海外保健医療勉強会（東京事務局）
- 23 日 四国高知 JOCS のつどい（高知教会）
- 30 日 石本馨短期ワーカー、バングラデシュより帰国

7 月

- 6 日 神戸 JOCS のつどい（雲内教会）
- 19 日 京都 JOCS チャリティコンサート（京都府民ホールアルティ）
- 31 日 ポンサヴァンのぞみ職員退職

8 月

- 10 日 海外保健医療勉強会（東京事務局）

9 月

- 6－7 日 「仙台・石巻 見る聞く出会う旅」
- 27 日 海外保健医療勉強会（東京事務局）

10 月

- 1 日 服部由起職員入局
- 5－6 日 グローバルフェスタ JAPAN に出展（日比谷公園）
- 5－6 日 高知スタンプショウに出店（高知イオン）
- 19 日 岩手県・釜石の現状を知る（関西事務局）
- 26 日 大阪 JOCS カフェ（関西事務局）

11 月

- 16－25 日 森田隆海外担当主事、タンザニア出張
- 24 日 芦屋 JOCS のつどい（芦屋岩園教会）

12 月

- 14 日 海外保健医療勉強会（東京事務局）
- 14 日 足利市民クリスマス（足利市民プラザ）
- 20 日 関西事務局ボランティア・クリスマス会
- 29－30 日 海外保健医療協力セミナー（横浜 寿地区）

## 7. 2013 年度の主な動き

### 1 月

- 21－2 月 2 日 森田隆海外担当主事、森田真実子職員（－1 月 28 日）、カンボジア出張
- 27 日 東京事務局ボランティア交流会（東京事務局）

### 2 月

- 1－2 日 ワンワールドフェスティバルに出展（大阪国際交流センター）
- 7 日－15 日 高橋淳子職員、協働プロジェクトフォローアップのため、バンングラデシュ出張
- 11 日 関西 JOCS2014 映画会（芦屋ラポルテホール）
- 28－3 月 2 日 第 5 回国際協力切手まつり in 山口（防府市）

### 3 月

- 5 日 チャリティー映画会（カメラシアホール）
- 14 日 海外保健医療勉強会（東京事務局）
- 29 日－4 月 4 日 森田隆海外担当主事、パキスタン出張
- 29 日－4 月 10 日 山崎眞由美研修生・奨学金委員、高橋淳子職員、奨学生フォローアップのため、ウガンダ出張

## 2013 年度事業報告書正誤表

22 頁

<追加>

【3－2】 ワーカー育成プログラム

（2）海外保健医療勉強会

第6回

日 時：2014 年 3 月 14 日（金）18：30～20：30

27 頁

<誤>

【3－6】 使用済み切手運動

2013 年度の切手受託累計と本会計繰入額は、昨年度と比較し以下のとおりであった。

|            | 2012 年度  | 2013 年度    |
|------------|----------|------------|
| 使用済み切手収益   | 2,058 万円 | 2,146 万円   |
| 使用済み切手受託件数 | 16,706 件 | 14,152 件   |
| 〃 受託量(Kg)  | 2,300Kg  | 11,017.5Kg |
| 書き損じハガキ収益  | 126 万円   | 90 万円      |
| 事業収益合計     | 2,184 万円 | 2,236 万円   |

<正>

【3－6】 使用済み切手運動

2013 年度の使用済み切手及び書き損じハガキの収益は、前年度と比較し以下のとおりであった。

|            | 2012 年度  | 2013 年度    |
|------------|----------|------------|
| 使用済み切手収益   | 2,058 万円 | 2,146 万円   |
| 使用済み切手受託件数 | 16,706 件 | 14,152 件   |
| 〃 受託量(Kg)  | 12,300Kg | 11,017.5Kg |
| 書き損じハガキ収益  | 126 万円   | 90 万円      |
| 事業収益合計     | 2,184 万円 | 2,236 万円   |

以上